

健康のかけはし

大田病院の「理念」

- 私たちの病院は
- ① だれでも安心してかかる病院
 - ② 心の通いあう、あたたかい病院
 - ③ 地域の人々と共に歩む病院
- であることをめざします。

No. 48
2015年12月10日

大田病院

〒143-0012 東京都大田区大森東4-4-14
TEL 03-3762-8421 発行責任者 渡邊 峰人

大田病院は基幹型
臨床研修病院です



2015年7月13日・14日の2日間、第三者評価である医療機能評価機構における病院機能評価を受審しました。今回で3回目の認定にあたります。今回で3回目の方々と共に歩んできています。地域の方々と共に定期的に組織運営にならないよう定期的に組織運営の見直しが必要と考えています。機能評価の受審はそのための良い機会と考え更新のために受審しました。

受診弱者の救済が行われていること、MSWによる独居入院患者の退院支援など大田病院が取り組んできた活動について良い評価をいただきました。

施設設備の面での指摘はありませんが、入院患者の方々に對するお知らせの掲示方法や、「説明と同意の取得」を行った後のフォローに対する考え方について、改善が望ましい旨のアドバイスを受けました。

「より良い医療サービス」とは何か、「医療の質」とは何かということとは常に進歩を求められる課題です。第三者の視点を取り入れながら、今後も引き続き前進に向けて整備・改善を積み重ねていきたいと思っております。

病院機能評価を受審して

機能評価受審事務局 本間 博

(シリーズ企画) 訪問看護ステーション紹介

城南福祉医療協会には訪問看護ステーションがあり、日々地域の患者さまの在宅生活をサポートしています。

おおもりまち訪問看護ステーション (問い合わせ先) 03-3298-5057

おおもりまち訪問看護ステーションには、若手から30年以上の経験豊富な21名の看護師と、2名のリハビリの療法士がいます。大森東・西・南・北・中・本町、北糀谷、中央、品川区南大井等の地域をネットワーク軽く廻っています。病気が悪化して入院した方の退院後、また入院せず在宅で療養したい方が安心し

て過ごせるようにお手伝いをさせていただいています。「来てもらってよかった」という言葉を励みに、利用者さまやご家族の笑顔に元気をもらいながら、雨でも夏の暑い日でも、風が強く寒い日でも自転車で乗って利用者さまのお宅に伺います。

(所長 野口恵美)



▶ 平和島営業所
◀ おおもりまち訪問看護



地域健康講座
城南保健生協・
大田病院看護部
共催企画



「自分や家族の最期を考えた
ことがありますか…」そう問い
かけられれば、ほとんどの人が
「ない」と答えるのではないで
しょうか。また家族と終末期に
ついて話し合うこともなかなか
ないと思います。

この学習会を開催するきっかけ
となったのは、大田病院の加
藤看護総師長から「城南保健生
協の班会で終末期の延命処置の
差し控えについてお話をした
い」という要請があったことか
らです。いくつか班会で生協の

「看取り・終末期の心構え」

自分や家族の最期について考える

城南保健生協 梶原直之

組合員さんに話をしてもらった
ところ、「いままで終末期のこ
とを考えたことなかったけど、
大事なことだね」という感想が
出されました。

そこで10月31日(日)、大田区消
費者生活センターで学習会を開
催することになりました。参加
は18人。講師は大田病院の秋山
ひかり看護師。「自分のためにも、
家族のためにも、自分はどう
うしたいのかをしっかりと考え、
大切な人に伝えておく、どこか
に記しておくことが大切」。そ
して「難しく考えず、自分の人
生はどのような人生だったか、
これからどのように過ごしてい
きたいか」をしっかりと考えるこ
とが大切と話されました。

そして、ヘルパーステーション
すずらん馬込の小松裕子ヘル
パーとおおもりまち訪問看護ス
テーションの岩本紀子看護師か
らは、それぞれ関わった事例
が紹介されました。

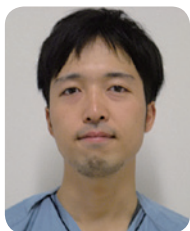
学習会の後、グループに分か
れて感想などを話し合いまし
た。参加された方からは「人生
の最期にある人の心や体の痛み

を和らげることが重要なのだと
感じました」「こういう学習会
がもっとあれば、終末期のこと
を家族で話し合えるかもしれな
いと思いました」「あらためて
エンディングノートを書き留め
ておくことにしました」などの
感想が出されました。

少し重たいテーマかもしれませんが、自分や家族と向き合うことの大切さがわかりました。こうした学習会を、いろいろな地域で開催していきたいと考えています。

『第2回ケアマネジャーさんのためのランチオンセミナー』

2015年9月15日に開催され、9人の参加で「がんの話～緩和ケアの取り組み」を学習しました。参加者からは、透析のこと、認知症、緩和ケア、無料低額診療等が学びたいと今後の希望が出されました。



初期臨床研修2年目 井坂 丞

初期研修2年目の井坂です。唐突ですが、人は毎日何のために生きているんでしょうか？ 何に向かって歳を重ねていっているのでしょうか？ 誰しもが幼い頃「こうなりたい」「ああなりたい」と文集やアルバムに綴ったことか。迷いなく書けた人もいれば、捻り出して書いた人もいることと思います。ちなみに井坂は、小3でバナナと木、小6で世界の支配者になったようです。さて、今現在はどうでしょう？ 人によっては「どうしたいか」ということよりも「こうしなければならぬ」ということが増えたり。人にとって本当に必要なものは一体何なのでしょう。

理性と本能、規範と情感。人にはどちらもありますが、実際それが混同していることもままあります。当たり前だと思っていたことをふと小さい子に「なんで？」と聞かれると、小さい子でも納得するような理由を探すのが

難しかったり(=規範が感情に混在)。終いには「そういうものなの！」となってしまったり……。自分の中にある「当たり前」をどれだけ顕在化しておくかが、ふとした瞬間、分岐点に立った自分を支えてくれることになるのかも知れません。次は、同期のリハビリPTの小川くんへメッセージをお願いしたいと思います。



編集後記

街中やテレビではクリスマスソングが流れる季節になり、月日の流れの速さを感じます。この夏以降国内では安保法案成立、辺野古基地建設を巡る沖縄の闘い、世界では各地でのテロ行為と「対テロ」を名目とした空爆等日々様々な問題が起こっています。ニュースを見る度に5年後10年後の自分はいったい何をして何を考えているだろうかと不安になりがちですが、諦めず他人事にせず粘り強く自分に何ができるのか考え続けなければならないと思っています。(A. M)